



メキシコを渡る単独移動の 子どもたち - 移動ルートに潜む危険と暴力

要約



Until we are all equal



Save the Children



Funded by
the European Union

調査報告書

調査は、メキシコシティ(CDMX)のIberoamericana大学の人権プログラムが作成した技術文書を基にプラン・インターナショナルとSave the Childrenがメキシコで実施したものである。

主導:
Arturo Estrada、調査リーダー
プラン・インターナショナル・メキシコ

参加組織:
プラン・インターナショナル・メキシコの南北アメリカ地域事務所(ROAH)とSave the Childrenメキシコ

本報告書は、メキシコで強制避難民となった脆弱な集団に対する多部門連携人道支援プロジェクトの枠組みの一環で、EUから資金援助を受けて作成が実現した。本報告書の内容に対する責任は、プラン・インターナショナル・メキシコとSave the Childrenメキシコが単独で負っており、いかなる形でもEUの見解を反映するものではない。

本調査は、同意の上でのアンケートおよびインタビュー、フォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)により得た、第三者の意見に主に基づいている。

謝辞:
私たちは、貴重な証言を快く共有して下さったすべての思春期の若者・家族の方・利害関係者の方に心より感謝申し上げたい。本調査が、人びとの声を広めることと、包括的保護の支援を目的としているため、彼らの信頼と協力を、心からの謝意を表したい。

また、Save the Childrenメキシコには、今回の協働の取り組みへの貴重な協力と尽力に感謝したい。並びに、プラン・インターナショナル・スイスとスペインには、現地パートナーとROAHを含む、すべての関連事務所に対し、献身・働きかけ・協力をを行い、本調査の実現に寄与してくれたことに感謝したい。

CDMXのIberoamericana大学の人権プログラムに属する同僚と彼らのすべての調査パートナーの方が、本調査のさまざまな段階において一貫して専門性を発揮し、厳格に作業を進めて下さったことに対し、感謝の意を示したい。

調査チームの本調査過程全体への貴重な貢献と献身的な取り組みに、特に感謝を示したく思う: Nasly Castillo Arteaga, Eugenia Morales Viana, Emilio López Reyes, Emilia Licón Morales, Fernanda Lobo Díaz, Janette Carrillo Díaz, Antonio Trejo Sánchez。

また、ティファアナ市、シウダー・ファレス市、レイノサ市で、移動中の子どもと思春期の若者の状況改善に日々尽力し、私たちを歓迎し、調査を実現させて下さった、すべての組織・主要な利害関係者の方に、感謝申し上げたい。

調査の調整を主導したAndrea Horcasitas Martínezにも謝意を表したい。

本チーム全体の尽力により本調査を完了することができた。

2025年5月

Save the Childrenメキシコについて

Save the Childrenは、子どもと思春期の若者(CAY)の権利の促進・擁護を先導する独立した国際組織である。120カ国以上で活動し、緊急事態対応や開発プログラムの実施を通じて、子どもが健全で安全な子ども時代を過ごせるよう支援している。Save the Childrenは、メキシコでは1973年から、国連子どもの権利条約の枠組みの下、健康・栄養・教育・保護・CAYの権利の擁護に焦点を当てたプログラムを実施してきた。

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、1937年にスペインで設立された、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した組織である。女の子が学び、リーダーシップを発揮し、意思決定を行い、健やかに成長ができるよう、より公正な世界を目指している。これまで85年にわたる歴史のなかで、出生から成人に至るまでの子どもの権利を支援するためにパートナーシップを築いてきた。現在、私たちは80カ国以上で活動し、アフリカ、ラテンアメリカ、アジアの50カ国以上でプログラムを実施している。

皆が平等になるまで、私たちは止まらない。

メキシコで強制避難民となった脆弱な集団に対する多部門連携人道支援プロジェクト

EUが資金提供する、メキシコで強制避難民となった脆弱な集団に対する多部門連携人道支援プロジェクトは、メキシコ南・北部の国境地域での人道・移民危機に対応するものである。同プロジェクトは、ジェンダーに基づく暴力(GBV)のサバイバーである女の子・思春期の女の子・女性に重点を置き、移民の重要なニーズを満たすことを目的としている。

この取り組みは、Save the Children主導のコンソーシアムを通じて実施されており、プラン・インターナショナル、ヘブライ移民援助協会(HIAS)、世界の医療団フランス、Alternativas Pacíficas、Casa Frida、デンマーク難民評議会との連携により行われている。

目次

1. はじめに	1
2. 調査方法	3
3. 人口特性	6
4. 調査結果と所見	7
5. 提言	23



プラン・インターナショナルのチーム、メキシコ北部の国境
© Plan International

1. はじめに

メキシコ北部の国境は、極めて複雑な移民動態が特徴であり、2つの相互に関連する現象が組み合わさっている。その2つの現象は、暴力による強制国内避難民(IDP)と、危険な状況や望む機会が得られないことに起因する外国人の通過である。そのような動きは、女性とCAYと先住民族コミュニティにさまざまな形で影響を及ぼし、武装集団の領域支配・コミュニティ間の衝突・GBV等の犯罪リスクと、国内外の移民制限政策による構造的リスクの高まりに直面している。

その状況下で、毎年何千人ものCAYが単独・保護者と共に、保護者・家族との再統合・より良い生活条件を求め、メキシコを通る旅に出ている。本要約は、プラン・インターナショナル・メキシコとSave the Childrenメキシコが、CDMXのIberoamericana大学の人権プログラムと協力して実施した調査の主な結果を示している。

本調査は、CAYの権利の促進・擁護に特化した独立した大規模組織であるSave the Childrenの国際規模の使命の中核をなす取り組みとつながっている。120カ国以上で活動する同組織は、緊急事態対応や開発プログラムの実施を通じて、子どもたちが健やかで安全な子ども時代を送れるよう支援しており、メキシコでは1973年から、国連子どもの権利条約の枠組みに基づく、健康と栄養・教育・保護・CAYの権利の擁護に関するプログラムを実施してきた。子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した開発・人道団体であるプラン・インターナショナルも、この状況下で活動している。85年以上にわたり、強い信念と希望を持つ人びとを結集させ、80カ国以上ですべての子どもの生活を変えるために活動を展開してきた。2020年以降、プラン・インターナショナルはメキシコで人道・移動危機に対応し、避難下の子ども・ユース・その家族を支援している。

本調査は、ティファアナ市、シウダー・ファレス市、レイノサ市の保護者保護者がいるあるいは保護者がいないCAYへのインタビューとFGDの包括的分析に基づいている。また、主要機関やサービス提供関係者から得た洞察も活用した。本調査は、CAYの移住の促進要因・移動中に遭遇し得る危険・彼らが経験する構造的・制度的暴力、移動による情緒的・身体的・社会的影響を考察している。

要約には、調査方法の概説・調査対象者の人口特性・主な調査結果が含まれ、最後に、彼らの緊急のニーズに対する機関・コミュニティの対応の強化のための提言が示されている。以下のウェブサイトでは、量的・質的データと対象地域で実施された支援策のまとめが含まれ、理解を深められる全編版文書が閲覧可能である: plan-international.org/mexico。

本調査では、CAYの実体験の証言と、彼らに日々接触する人びとの考察を収集している。こうした声を提供して下さったすべての方々に対し、彼らの寛大さと本調査への信頼に、心から感謝したい。本調査は彼らの声を広めることと、包括的保護の支援を目的としている。また、EUとプラン・インターナショナル・スイスからの財政的支援が、本調査の実現に大きく貢献したため、感謝を申し上げたい。

2. 調査方法

本調査では、2024年11月～2025年2月に、4つの段階に分けた混合手法が開発された。データは、ティファアナ市、シウダー・ファレス市、レイノサ市の3つの国境都市で収集された。その3都市を選んだことで、ジェンダー・年齢・国籍の交差性に注目し、多様な移住経験と強制IDPのパターンの把握が可能となった。

本調査では、以下の主要な2つの対象集団に関する情報を収集した: 1) 保護者がいない移民またはIDPのCAY、2) 彼らの保護に関連するアクター(行政担当者・市民社会団体(CSO)・人道支援従事者・ソーシャルワーカー)。図1は調査の段階の視覚的概要である。

図1

調査の段階

第1段階

- 概念設計

第2段階

- 関連するアクターと、移住者・強制避難民のCAYへの保護と支援のマッピング

第3段階

- CAYからの一次データ収集
- 関連するアクターからの一次データ収集

第4段階

- データ分析
- 調査報告書とメモの統合

著者の現地調査に基づく追加説明



第1段階

第1段階では、調査ツールの作成と調査方法の設計が行われた。Iberoamericana大学、プラン・インターナショナル、Save the Childrenにより承認された厳格な倫理指針が組み込まれ、対象となる人びとに合わせた調整を行い、インフォームドコンセントの徹底・仮名使用が保証された。

第2段階

第2段階では、3都市での主要なアクターと得られる機会を特定した。これは、法的または規制の権限を有するアクターと移動中の人に直接的な支援・保護を提供する組織の特定をすることで可能となった。それにより、優先順位の確立・連携関係の構築・重要な情報を入手し、機関や組織の参加を確実にするための協働戦略の策定が可能になった。

第3段階

第3段階は、一次データ収集に焦点を当てた。質的調査では、CAYの経験を専門的知見として捉えて重視する、自叙伝的手法を採用した39回の半構造化インタビューと8回のFGDを実施した。また、73の質問で構成されたアンケートを用いて155件の調査を行い、回答者の統計学的特徴や暴力を受けた経験等の観点から、8つのテーマ別区分に分けた。

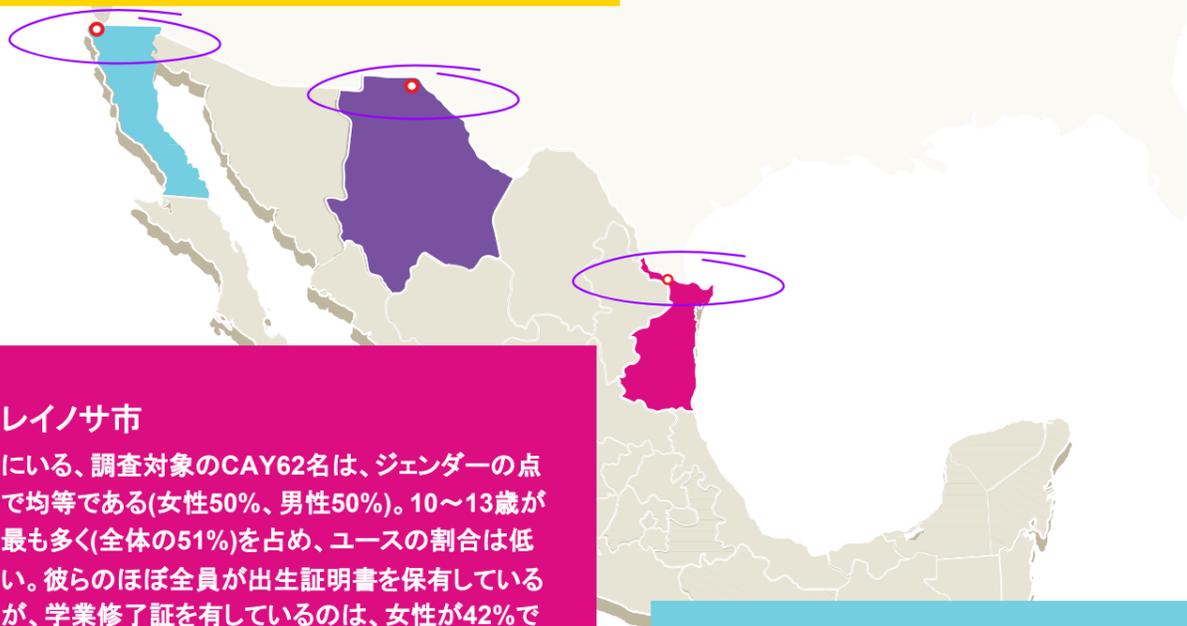
現地調査は重大な問題を経験した。治安上の問題による、CSO運営の避難所や受入施設以外へのCAYの移動の制限・当初の参加者の調査への不信感・機関運営の避難所での官僚主義的な障壁である。それらの制約があったとはいえ、個々人と各都市の状況から重要な経験と特徴の記録が実現できた。

第4段階

第4段階では、交差的手法を採用し、CAYの声を優先した形でデータの分析・体系化を行った。分析では、専門ソフトウェア(atlas.ti と Excel)を用いて体系化を実施し、結果を5つの主要分類と各分類の細区分に整理した: 移動状況(動機とリスク)・家庭環境(社会経済的問題と家庭内暴力(DV))・機関の対応状況(調整とプログラムの継続性)・ケアの優先事項(メンタルヘルスと教育)・暴力(組織的/機関的/ジェンダーに基づく犯罪)。この分析構造は、移住現象の構造的視点からの把握と主観的経験の理解を可能にした。

主な制限事項として、本調査が、機関内にいる状況のCAYを優先して対象者にしたため、非公式経路や無規制の場所を移動する人びとの経験が欠如していることが挙げられる。しかしながら、結果は、移動中の子どもが経験する権利侵害を証明し、十分なケアの享受を妨げるいくつかの障壁を明らかにしており、ジェンダー・年齢・国籍を考慮した保護体制の強化の必要性が強く示されている。

3. 人口特性



レイノサ市

にいる、調査対象のCAY62名は、ジェンダーの点で均等である(女性50%、男性50%)。10～13歳が最も多く(全体の51%)を占め、ユースの割合は低い。彼らのほぼ全員が出生証明書を保有しているが、学業修了証を有しているのは、女性が42%で男性が39%のみであり、学校への統合の障壁が示唆されている。6%が先住民の言語を話し、調査対象の女性の6%が障害を抱えていた(男性の中では障害を持つ人は確認されていない)が、それらの要素は、彼らの脆弱性を高めている。出身地は顕著に多様であり、ホンジュラスが37.1%、メキシコもが37.1%(主にミチョアカン州・チアパス州・ゲレロ州)・ベネズエラ(11.3%)・エルサルバドル(5%)・エクアドルとグアテマラ(各3%)・コロンビアとアメリカ(各2%)であった。

ティファナ市

にいる、調査対象のCAY19名では、女性の方がやや多く(56.5%)、7～9歳の年齢層が多かった(女性46%、男性30%)。彼らの中で、学業修了証を有している人はおらず、出生証明書を保有している人は80%であった。彼らの出身は主にメキシコ(89.5%)で、ゲレロ州(29.4%)とミチョアカン州(23.5%)出身が多数であり、ホンジュラス出身が少数おり、両親がメキシコ人のアメリカで生まれた女の子が1名いた。

シウダー・ファレス市

にいる、調査対象のCAY74名に最も多様な状況がみられた。男性が64%で女性が35%(ノンバイナリー1名を含む)であり、ユースの年齢層の人が最も多かった(76%)。彼ら全員が出生証明書を有しているが、学業修了証は所有していなかった。彼らの出身は主にメキシコ(81%)で、特にミチョアカン州(21.7%)・チワワ州(18.3%)・チアパス州(16.7%)であり、グアテマラ(8.1%)・ベネズエラとホンジュラス(各5.4%)・コロンビア・エクアドルとニカラグア(各4.2%)・ドミニカ共和国(1.4%)となっている。

4. 調査結果と所見

本調査は、メキシコの3つの国境都市での移動中のIDP/国際的な移民のCAY複雑な状況を明らかにした。図2が示す通り、主なCAYの移動理由は、家族の再統合(34.8%)・犯罪的暴力からの避難(21.3%)・直接的な脅威やコミュニティ紛争からの避難(11.6%)であったことが示された。メキシコのCAYの国内避難では暴力と貧困が深刻な州から北部国境への避難が見られる。

以下では、CAYの移動状況・移動中の同伴状況・出身家庭の状況・移動中に経験する制度的環境・CAYとサービス提供者が言及した、ケアの優先事項と暴力に関する懸念が強調された。



避難所にいる、保護者がいない移動中の子どもたち、メキシコ © Plan International

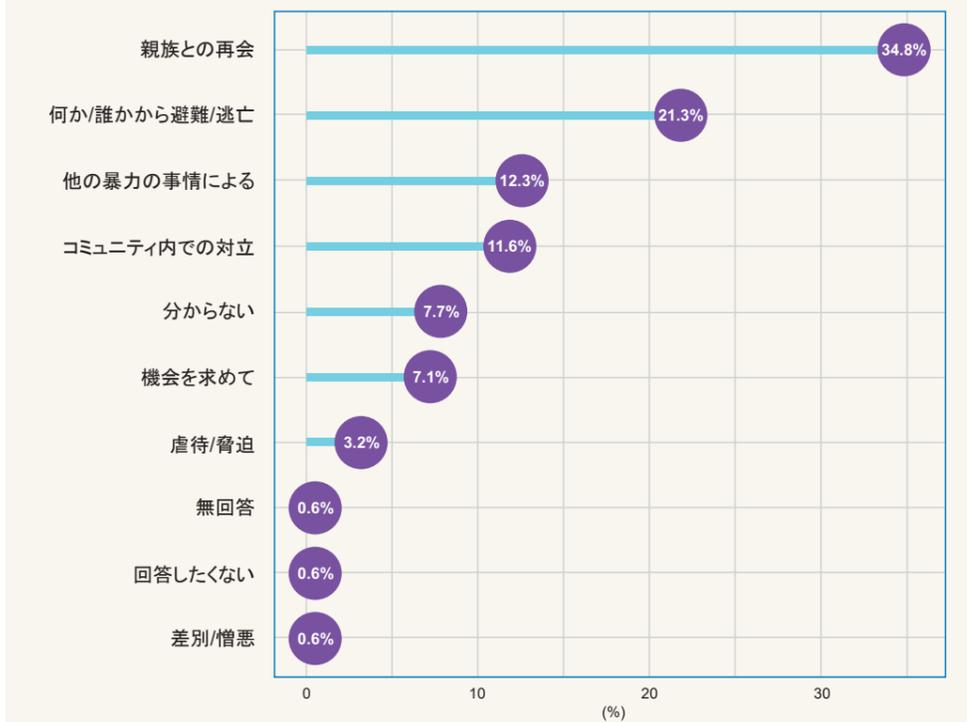
4.1 CAYの移動危機

貧困・不平等・暴力の構造的要素が、CAYの移動状況の特徴付けている。保護者の有無によらず、CAYはDV・GBV・組織的犯罪・コミュニティ紛争が支配する環境から避難しようとしている。

女の子と思春期の女の子の方が、危険な状況からの避難や、愛する人びととの再会を望む発言を頻繁に述べる傾向がみられたが、経済的な動機を強調したCAYも認められた。ティファアナ市の避難所で出会った2名の女の子は、保護者からの暴力のため、出身地を離れたと話した。

約7.7%のCAYは、自身の移動の理由を知らないと言ったが、これは、責任を持つ大人の子どものコミュニケーションの欠如を反映している。レイノサ市のFGDIに参加した1名もこの点に言及し、子どもの認識の欠如は、保護者が子どもに移動理由を説明していないからかもしれないと述べた。「子どもは、大人がそう決めたので、としか言えません」(人道支援従事者、FGD)。一般的に、CAYは、移動に関し、家族のつながりが中心的役割を果たしていることを認識しており、それは近親者(父親・母親・兄弟姉妹)との再会でも、外国の遠い親族(祖父母・おば・おじ・いとこ)との再会でも同様であった。

図2. ティファアナ市、シウダー・ファレス市、レイノサ市にいる、調査対象の移動中のCAYの移動理由



著者の現地調査に基づく追加説明

レイノサ市のCAYの目的地に関し、CAY全体の70%、女の子と思春期の女の子では80%が、はっきりとアメリカを目的地としていた。内74%は、アメリカでの難民申請の要件である保証人となってくれる、アメリカに住む知人がいた。ティファアナ市では、31.6%のCAYだけが具体的な目的地がアメリカにあると回答し、目的地に知人がいると回答したのも47%だけだった。シウダー・ファレス市では、90%のCAYが具体的な目的地がアメリカにあると回答し、96%が目的地に家族や知人がいると述べた。

移動途中での別離回避、または公証人の親権手続き回避のために、拡大家族との再統合が行われていた事例もみられた。4名のCAYは、保護者と再統合するため、おじやおばと共に移動していた。この家族は一緒にあり続けるために、親族関係を隠すことを選択していた。これは、現在の政策や手続きが、移民や避難民の家族が別離回避のために隠蔽戦略に頼らざるを得ない状況を明示している。



4.2 移動時のCAYの同伴者

調査対象の3都市で、大多数のCAYは移住の旅を同伴者と共に始めたというが、同伴の形態とその期間は大きく異なった。

レイノサ市

では、調査時でも88.7%に同伴者がおり、内、83.9%母親で62.9%が兄弟姉妹であった。隣人や他の移民などの、不特定の人びとと共に移動していたのは20%だけだった。同市での同伴状況の結果は、ティファアナ市とシウダー・ファレス市の結果より高い安定性を示していた。



避難所にいる保護者のいない移動中の女の子、メキシコ
© Plan International

ティファアナ市

では、CAYの89.5%が母親(73.7%)や兄弟姉妹(84.2%)と共に出発したと回答したが、調査時に同伴者がいたのは52.6%だけであった。残りの57.4%は、家族内の衝突や家族の再編成を経験し、それがその後の移動行程での同伴に影響したという。

シウダー・ファレス市

では、63.5%のCAYが出発時に家族・仲間に同伴してもらったと回答したが、調査時に同伴者がいたのは32.4%だけであった。また、監督責任のない人物、例えば「el pollero(人身売買人)」や移動中で知り合った人などと共にしていた人もかなりみられた。別離の主な原因として、強制送還・連絡途絶・家族内での決定等が挙げられた。

これらの調査結果から、同伴者が当初いた場合が多く、3都市の少なくとも57%のCAYが兄弟姉妹や親族の同伴付きで移動しているとしているが、同伴の継続性は必ずしも保証されていないことが示されており、つまり、移動中の絶対的な保護が維持されないということである。したがって、保護体制は、同伴者の存在・適切性・継続性と同伴の質・正当性・期間を評価し、移動中のCAYに対して効果的な対応を保証しなければならない。

4.3 出身家庭の状況

CAYの家庭状況は、経済的危機・不安定な家族構造・家庭崩壊に特徴付けられ、それらの要素が彼らの移動に影響を与えていた。例えば、レイノサ市では、92%が少なくとも1人の親と暮らしていたが、66%は母親のみと暮らし、父親の不在が明らかとなった。ティファアナ市とシウダー・ファレス市でも同様の状況が認められ、世帯は小さな核家族から大家族構造までさまざまであった。

CAYの保護者の限られた経済的機会により、彼らの多くは幼い頃から農業や路上販売等で非公式な労働を強いられている。例えば、レイノサ市のCAYの27%が移動前は、出身地で農作業や路上販売に従事していたという。

ティファアナ市では、CAYの47%が事業や家庭内労働に従事していたし、シウダー・ファレス市では、55%が路上販売に従事していたという。レイノサ市にいた16歳のグアテマラ人の女の子はこう述べた。「私は仕事と学業を同時にこなしていました。平日は起きたら仕事に行き、週末は勉強していました」(Esmeralda, 16歳、グアテマラ、インタビュー)。

移動後、CAYの労働活動は一気に止まった。この児童労働の減少の理由として、法的制限と移動先の治安の悪さがよく挙げられる。ティファアナ市にいたグレロ州出身の女性は、暴力は依然として存在し、犯罪集団は「至る所に手下を配置している」と述べた。

4.4 制度的環境: 移動中のCAYの保護への取り組みに対する障壁

移動中のCAYの保護への取り組みは、メキシコの制度的領域、特に調査対象の国境地域の都市で重大な問題となっている。本調査は公共政策分析に重点を置いていないが、現地の主要アクターとの対話から、CAYのケアに対する重大な障壁を特定できた。各都市で実施されたイベントや活動に関する言及は、インタビューやFGDの参加者の、彼ら自身の状況で最も重要または問題視されるものとして指摘した内容に基づいている。

レイノサ市では、中心的問題として、機関による優れた経済的支援の必要性が浮上し、ある支援職員はFGDでこう述べた。「避難所にいる人だけでなく、直接CAYと働き続けることが重要です」。

多くの移動中のCAYに接触するために、保護措置を正式な受け入れ施設を超えて拡大させることの重要性が強調された。別の重大な問題として指摘されたのは、公共機関職員の高い離職率であり、ある当局者によると、機関間合意の効果的な監督の妨げとなっているという。「私たち政府機関としても、その点で多くの問題を抱えています。ある問題の対処のために会議を開くと、彼らは担当者を派遣し、私たちが1~2カ月後にフォローアップすると、その案件について何も知らない別の担当者を派遣してくるのです」。不安定な雇用状況は、包括的保護の実現に必要な機関間調整の継続性と効果を損なわせている。

また、レイノサ市では、国家移住庁(INM)の欠陥を指摘する声を得られた。具体的には、CAYの移住の動きを継続的で整備された形で追跡する統合された体制が欠如しているという問題である。国境を渡る未成年者の支援センターに所属する教育者は、この問題を以下のように指摘・説明した。

「大きな問題のひとつは、移住に関する機関であるINMが、ある場所で起きることと別の場所で起きることに関する統合された情報を有していないことです。例えば、多くの人が南部の国境から入国し、国内の中央部からほとんど北上しない状況です」

情報の断片化は、包括的なCAYの移動経路の把握を妨げ、リスクの把握や一貫性のある効果的な保護経路の施行を阻害している。これによる直接的な影響は、CAYに対する支援は断片的で、時に彼らを再び被害者にしてしまうような対応が行われることである。

ティファアナ市では、法務省への力の集中が特に問題視され、それにより、CSOの参加が制限されているという。同市のソーシャルワーカーは、FGDでこう述べた。

「以前は、送還されたユース集団の受け入れ・ケアの提供・家族との再統合を実現・国際的な保護の対象となる事例の特定をしていました...でも、3年前からそれらの責任は法務省に移管されました。法の施行の前進であるべきですが、現実には、監督や外部介入のない官僚主義的で不透明な構造を生み出しています」

役割の集中化は、保護の過程の監督と透明性の欠如への懸念を生んでいる。

ティファアナ市での別の重大な問題として、主にメキシコ人のCAYが暴力的環境に戻される、望まない家族の再統合が挙げられた。あるソーシャルワーカーはインタビューで、こう訴えた。

「メキシコ人の子どもの国際的保護を求める権利は、全く保護されていません。メキシコ人は、その権利を享受できないのです。暴力や危険の存在の有無に関わらず、自動的にメキシコにいる家族へと戻されず、彼らには、アメリカへの不法入国を試みる以外の選択肢がないのです」。

その措置は、子どもの最善の利益の原則に反し、CAYを重大な危険にさらす可能性がある。

シウダー・ファレス市では、CAYの総合的保護のための地方自治体と国家の機構(SIPINNA)・家族の総合的発展を支援する国家制度(DIF)・移民当局・国際組織等、移動中のCAYの保護に関わるさまざまな機関間の調整の不備が重大な問題として指摘された。また、標準化された情報システムの欠如と、調整会議に意思決定権のない人物の参加が散見されることが、合意の効果的な実施の障壁として指摘された。さらに、重要な支援を提供していた組織が最近排除されたことも問題として挙げられ、ある避難所調整役の人物は、こう述べた。

「彼は、心理士としてのここでの支援を突然止め、今週の月曜に私たちの職員を撤収させました...移住支援のために常駐していたソーシャルワーカーと心理士4人が月曜に呼び出され撤退を命じられ、撤収されたのです」。



避難所にいる同伴者のいない思春期の若者、メキシコ
© Plan International

その心理的・情緒的支援と移住支援の喪失は、CAYのニーズへの対応能力を著しく低下させる。

各都市特有の事情は存在するが、移動中のCAYの保護に関する制度上の問題には、顕著な共通点がみられた。断片化したケア・機関間の強い連携の欠如・移民関連機関内の情報システム面の障壁は、3都市で繰り返し指摘される問題であった。職員の高い離職率とリソースの不足も、保護サービスの継続性と質を低下させているという。

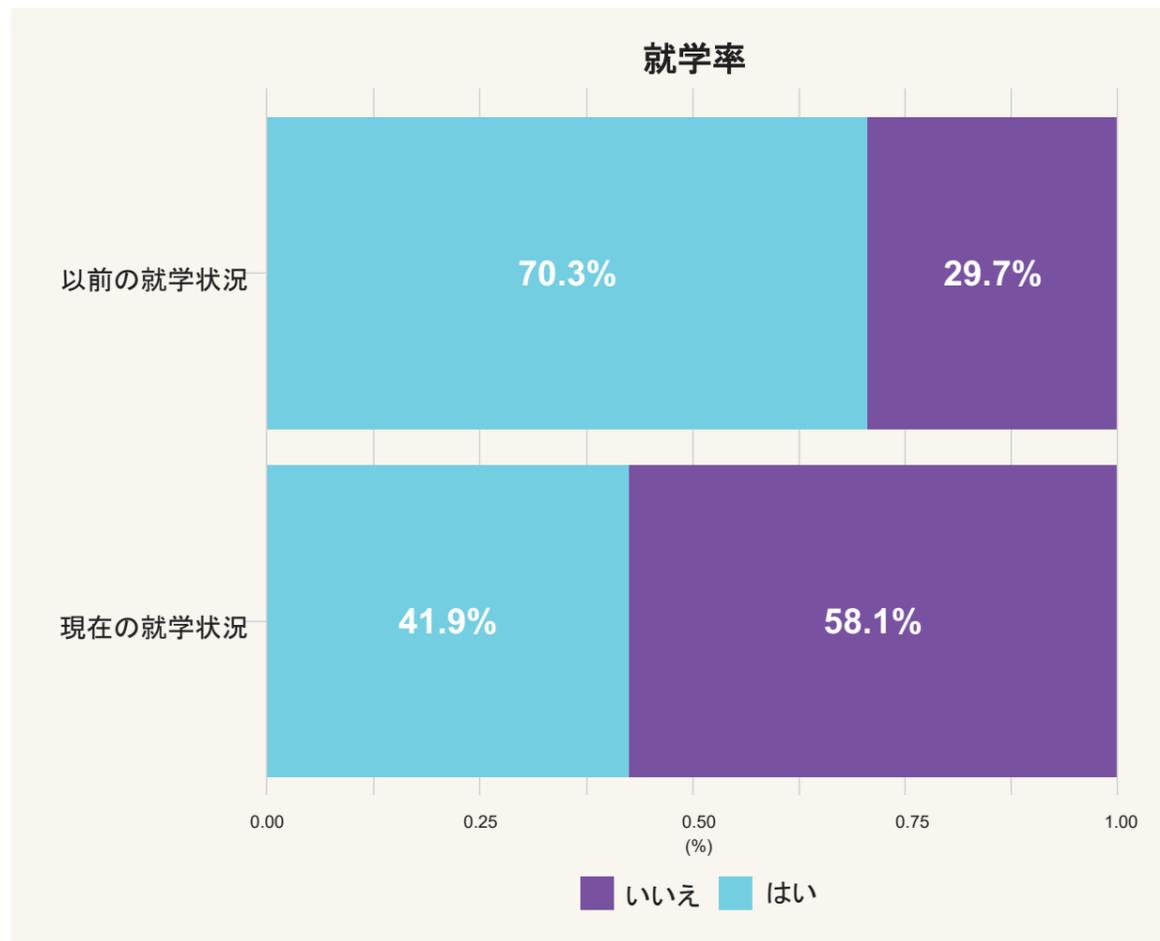
4.5 CAYのケアにおける優先事項

3都市にいる移動中のCAYを対象にしたアンケートとインタビューに基づいた、ケアに対する主要なニーズと優先事項が特定され、最近の移動状況下の彼らの経験が可視化された。結果から、教育・包括的な医療・ケア・安全等の、重要な分野での権利の享受と保護の重要性が明らかになった。

4.5.1 教育の享受

図3は、3都市での移住・避難後の深刻な中途退学率の分析結果を示しており、CAYの58.1%が不就学であることが明らかになった。特に、移動中のCAYが教育の享受に対して構造的障壁を経験しており、それが彼らを教育から排除させ続けていることが判明した。行政上の障壁・安全面の問題・情報の入手・差別/外国人嫌悪が挙げられる。

図3. 移住/移動前後の就学状況



著者の現地調査に基づく追加説明

中途退学の問題は、書類不足や機関の怠慢に加え、移動までの待機期間を延長する移民政策(調査対象者の証言によれば6カ月)により、一層深化している。「Where I Go, School Goes With Me(公教育省(SEP)とユニセフ)」等の、メキシコ政府によるプログラムは、レイノサ市の避難所等の、特に治安の悪い地域では積極的には行われていない。それらの地域では、誘拐や犯罪集団による徴用の危険を懸念し、家族が近隣の学校に子どもを通わせたくないという。また、ある人道支援従事者はFGDでこう述べた。

「メキシコ人の女の子や男の子の教育を担当したり、監督を行う意向を示したりする機関はありません。その理由の一つには、避難所のある地域でCAYへの対応がされていないことによる、治安の問題があります」

(人道支援従事者、FGD、レイノサ市)

学校での差別により、CAYの教育からの排除がさらに深刻化している。調査で収集された証言によると、メキシコ人の保護者は、自身の子どもを移動中の子どもと共にさせたがらない。教師はこの保護者の過敏な反応への対応策を持っておらず、移動中の子どもの権利について理解が深くないため、教育現場での対応が不十分となっている。シウダー・ファレス市では、先住民とハイチ人のCAYが教師と同級生から拒絶されているという。それらに加え、カリキュラムの適応の欠如も指摘された。調査対象の避難所で、公式な教育プログラムが提供されているのは3か所だけで、ティファアナ市のYes We CanのみがSEPから認可を受けている。その上、短期宿泊施設の授業は通常、学術的な有効性のない余暇活動に限定されており、教育の遅れを拡大させている。

行政上の障壁も重大な問題である。法律上は移民の身分によらず教育の享受が保障されているが、実際はアポスティーユ付き出生証明書や居住証明書の提出が要求され、特に、保護者がいないCAYにとってこの問題は深刻である。また、先住民の言語(ツオツィル語やナワトル語等)やハイチ・クレオール語話者のCAYのための通訳の不足は、彼らの教育現場への統合を妨げており、ティファアナ市のグエロ州出身のあるメキシコ人の女の子は、スペイン語が流暢でないとして、2つの学校から入学を拒否されたという。

そして、別の主な障壁として、多くのCAYの家族がメキシコで教育を受ける権利を有していることを知らないため、誤情報により教育の享受が妨げられていることが判明した。特に、同伴者がいないCAYに、この問題は深刻であり、人道支援従事者はこう述べた。

「同伴者がいない子どもは、自身の感覚を信じており、彼らは一人で来て・移動しているため、避難所や閉鎖された空間にいることを恐れています。避難所へ送られることへの恐怖心があり、支援を受ける妨げとなっています」

(人道支援従事者、インタビュー後)

4.5.2 包括的な医療の享受

CAY全員が有する包括的な医療を享受する権利は、国籍や移民の身分によらない、基本的権利である。だが、同権利は、本調査で対象とした3都市で、依然、体系的に侵害されていた。特に差別のない、性と生殖に関する権利、情報、治療の享受が、調査で指摘された事柄である。レイノサ市のFGD参加者であるソーシャルワーカーによると、保護者の同意が法的要件であるため、保護者がいない子どもは、医療を受ける際に大きな困難を経験するため、より深刻な状況に置かれているという。

これに関連し、避難所内での性と生殖に関する権利に関する教育の欠如が指摘された。それは、こうした事柄の扱いを通常、受け入れ施設の管理者が拒否し、家族が一般的に、宗教との関連だけでなく、滞在を脅かすことを避けるために避難所の方針を遵守しているためである。

健康の享受の権利に関する情報の欠如と言葉の壁がさらなる障壁となっているようである。「彼らの多くは、自身が外国人であるので、その権利を持っていないと考えています」(人道支援従事者、インタビュー)。特に同伴者がいないCAYの知識不足は深刻で、「一人で来ているため、そこ(医療機関)に行く避難所に送られると考え」(人道支援従事者、インタビュー後)、病院や医院への受診を避けているという。それらの障壁の組み合わせることで、法的枠組みが包括的であっても、実際的には排除を再生産する体制となっている。

同様に、力不足や警備員の活動規定の欠如を理由とする、「警備員は移動中の人物だと知ると、情報を求めることも許さずに彼らを追い返す」(人道支援従事者、インタビュー)という事態が繰り返し起こっていることも判明した。初期段階での排除は、CAYが医療の利用機会を得た後、「医師から[処置を]拒まれ、叱責を受ける」(人道支援従事者、インタビュー)ことで一段と悪化するという。中には、性的虐待の被害者である思春期の女の子が「医師に、彼女が述べた週数と一致しない状態だと指摘され、叱責された[...] それらの治療はCAYへの配慮が欠如している」(人道支援従事者、インタビュー後)という凄惨な事例もみられ、極めて脆弱な状況下でも差別的な扱いが存在することを示している。



避難所にいる、同伴者がいない移動中の子どもたち、メキシコ
© Plan International

「彼らは一人で来ているため、そこ(医療機関)にいると避難所に送られると考えています」

(人道支援従事者、インタビュー後)

4.5.3 メンタルヘルスと心理・情緒面での支援

ウェルビーイングは、食料・避難所・基本的な医療等、即時的な物理的ニーズより優先度が低くなりがちである。そのため、移動中の多くの家族が心理的なケアを後回しにし、目的地に着けば情緒面の状況は改善されると考えているという。レイノサ市のFGD参加者は、こう指摘した。

「保護者が子どもに配慮したくない訳ではなく、彼らは目の前で起きていることに集中しなければならないのです。彼らはよく「アメリカに入って、目的地に到着して、状況がよくなったら、あなたのことに向き合うから」と言います」

(人道支援従事者、インタビュー後)

国内の暴力から逃れたCAYは、特に組織的犯罪集団と地元治安当局の共謀に遭遇した場合、PTSDや当局への不信感を経験するという。あるFGD参加者は、こう述べた。

「子どもたちは防衛的な表情でやってきます。皆悪い人だ、知らない人だ、触らないで、と...でも、時間が経つと、表情が変わるのです」

(避難所施設長、FGD)

また、保護者との長期の別離は、CAY、特に若年のCAYに、見捨てられたというトラウマを与えている。彼らはなぜ保護者が一緒ではないのか、なぜ長期間避難所でほとんど/全く連絡が取れない状態で滞在しているのかが理解できないのである。文化や国籍の違いを持つ、保護者がいないCAYの場合、その影響は一層深刻であり、これについて、あるFGD参加者はこう説明した。

「多くの場合、子どもたちは親族とさえ連絡を取ることができません。アフガニスタンなどの外国から来た子どもの中には、時差や通信手段へのアクセスがないことから、保護者に電話をかけられない子どももいます。こうした状況から、見捨てられたと感じ、深刻なトラウマを引き起こすのです」

(弁護士、FGD)

当局との協議型FGDと主要アクターとの対話から得た情報によると、DIF避難所での自殺や脱走の事例が報告されており、それは、それらの施設内で経験する情緒面の問題の深刻さを反映している。つまり、CAYのストレス・不安・うつは、彼らが過ごす空間のあり方や、組織や政府機関が提供するケアに影響を受けるのだ。ある人道支援従事者はFGDで、こう述べた。「それらの空間では、子ども、特に女の子にストレス・不安・うつ症状を認めています...私たちは大人中心の視点で対処することが多いです」(人道支援従事者、FGD)。その対処策により、機関がCAYの特定のニーズの理解・対応する能力が制限されてしまっている。

移動の状況下で、CAYは精神的に深刻な問題を抱えているが、国際資金の縮小に伴う心理・情緒面の支援プログラムが停止されていることで、それらの問題が一段と悪化しているという。この点に関し、シウダー・ファレス市にいた、ある10代の若者は、それらの縮小とKids in Need of DefenseやHIAS等の組織によるプロジェクトの終了の重大さを、悲しさを表しながら語った。「心理士はすごい人たちがだったけど、もう来られなくなるって言ったんだ」(José、メキシコ、インタビュー)。

4.5.4 法的保護と法定代理

インタビューとFGDで収集された証言から、同伴者がいないCAYの移動中の権利の包括的保護は、関与した人物の知識の欠如・機関の職員の輪番制勤務・機関間連携の欠如により、必ずしも効果的な実施がされていないことが、以下のように判明した。

移動中のCAYへの十分な法定代理の欠如を示す典型事例に、ベリーズ出身の女の子の事例がある。彼女のホンジュラス人の母親はアメリカにいたが、彼女はメキシコ・モンテレイ市で留置された後、彼女の国籍や家族再統合の権利に反してホンジュラスに送還されるよう圧力を受けた。弁護士によると、

「母親は絶望的になっており、私たちは介入して送還手続きを止め、アメリカで母親と再会する彼女の権利を保障しなければなりませんでした」

(弁護士、インタビュー)

当局の知識不足と効率的な法定代理制度の欠如が、移動中のCAYの権利を脅かすことを示す事例である。

また、公務員と人道支援従事者へのインタビューから、INM・CAYの保護を担当する検察官・CSO等、異なる組織間での責任の断片化により、手続きの一貫性を欠くこととなり、CAYの権利の保障に影響を及ぼしていることが明らかになった。シウダー・ファレス市の州人口評議会のある職員によると、「機関間の明確な調整はありません。各機関は独立して活動しているため、取り組みの重複や、より深刻な問題として、支援に抜けが生じたりしています」。

調整不足は、職員、特に直接的なケアに関わる職員の高い離職率により深刻化している。ある援助職員はこう述べた。

「職員が変わる度に、規約と子どものニーズを説明しなければならず、そのせいで、対応が遅れ、ケアの継続性に影響が及びます」

(人道支援従事者、インタビュー)



避難所にいる同伴者のいない移動中の女の子、メキシコ
© Plan International

4.6 暴力

移動中のCAYは、出身地・移動中・受け入れ地で、さまざまな形態の暴力に遭い、幸福・発達・権利の行使への影響を受けている。機関または武装集団/個人からの脅迫・DV・組織犯罪等の加害者の不処罰といった、構造的暴力が主要要因となって移動している子どもにとって、避難・移住は生存戦略であることが多い。だが、移動や国境地帯での長期化した滞在が安全を保障することはなく、彼らを新たな危険にさらし、安全の即時獲得・心理的/情緒的健康・長期的な幸福に悪影響を及ぼす¹。

1. Pan American Health Organization (PAHO). (2022). Report on the Regional Situation 2020: Preventing and Responding to Violence against Children in the Region of the Americas. <https://doi.org/10.37774/9789275322949>.

4.6.1 DVとGBV

DVとGBVは移動の主要要因となっていた。レイノサ市とティファアナ市での調査から、身体的虐待・殺害に言及した脅迫・性的虐待が、母親・息子・娘を逃亡に至らせた事例が明らかになった。CAYは、危険な場所の回避や大人に助けを求める等、自己防衛戦略を確立しているものの、移動中の信頼できる支援ネットワークの欠如は、彼らをより重大な危険にさらしている。

ハイチ出身の10代の若者のMarcoは、インタビューで父親がいかに「彼と彼の他の家族を怒鳴り・殴り・働かせたか」について語った。「母親に対して特に酷く、殴り・虐待し・脅していました。そしてある日、父親は母親に「お前が家を出たり、どこかに行ったりしたら、俺はお前を探し出し、死なせる」と言ったのです」。CAYと共に暴力的なパートナーや虐待的な家族の構成員から逃れるために出発した、パートナーのいない女性の証言も、調査過程で複数記録された。

インタビューとアンケートで記録された複数の事例で、DVIは彼らの移動の要因であるだけでなく、CAYがどのように移動するかを左右し、しばしば極めて脆弱な状況に追い込むこととなっていた。ティファアナ市で7~10歳の女の子を対象に実施したFGDで、彼女たちは虐待やハラスメントの被害者であったことを認識しており、それらから身を守るための戦略を考案したという発言が挙がっていた。

「彼らが私をじっと見ていたら、私は「水を飲みに行く」と言ったり、「トイレに行く」とか「水を飲みに行く」と言ったりして、戻らないようにしました」
(Estrella, 8歳、メキシコ、FGD)

4.6.2 組織犯罪による暴力

ホンジュラス・エルサルバドル・メキシコ等の国では、組織的犯罪集団は、CAY、特にユースを脅迫や虚偽の約束によって強制的に徴用している。インタビューでJoséという男の子は、組織犯罪が「標的を見つけ・捕まえる方法を沢山備えていて、岩の多い場所もあるので、逃げ去るのは困難だ」と述べた。同伴者がいないCAYは最も脆弱であり、行方不明や搾取の事例の報告が存在する。

また、移動中は、誘拐・恐喝・人身売買の危険も高まり、特に一般的ではない経路上での発生は顕著である。シウダー・ファレス市とレイノサ市では、組織犯罪集団の存在が移動の安全性を制限している。同時に、国境周辺の軍事化が進み、メキシコの移民管理が厳しくなったことで、多くの家族や保護者のいないCAYが、人身売買ネットワーク・高速人身売買・誘拐の危険にさらされる、一般的ではない危険な経路を選択せざるを得なくなっている。



避難所にいる同伴者のいない移動中の女の子、メキシコ
© Plan International

4.6.3 制度的暴力

移民政策と官僚主義が再び被害者を生むことがある。ティファアナ市の事例では、家族再統合に数年を要し、CAYが先の見えない状態に置かれている。一部の避難所では家族との連絡や支援者との接触を困難にしている事例もあるという。さらに、秘密厳守と独立した監督組織の欠如が、他の組織やアクターが介入したり、手続きを見守ったり、伴走したりする可能性を狭めている。透明性と説明責任の欠如は、CAYの権利侵害が発見されず、加害者側が処罰されない可能性を生んでいる。この点について、ある人はこう述べた。

「DIFに送られた子どもが孤立していることに懸念を抱いています。彼らは自身の権利に関して何の情報も持っておらず、外部との連絡手段もなく、彼らの多くは、家族とも連絡が取れません」

(ソーシャルワーカー、ティファアナ市、インタビュー)

4.6.4 里親家庭/施設での暴力

避難所は、暴力が再び起きる空間ともなり得る。レイノサ市の避難所は、犯罪集団の支配下の地域に位置するため、CAYの教育や医療の享受が阻害されている。同市の主要な利害関係者のFGDのある参加者は、こう指摘した。

「保護者は、誘拐や犯罪集団からの勧誘を危惧し、子どもを外に連れ出したりしません」

(人道支援従事者、FGD)。

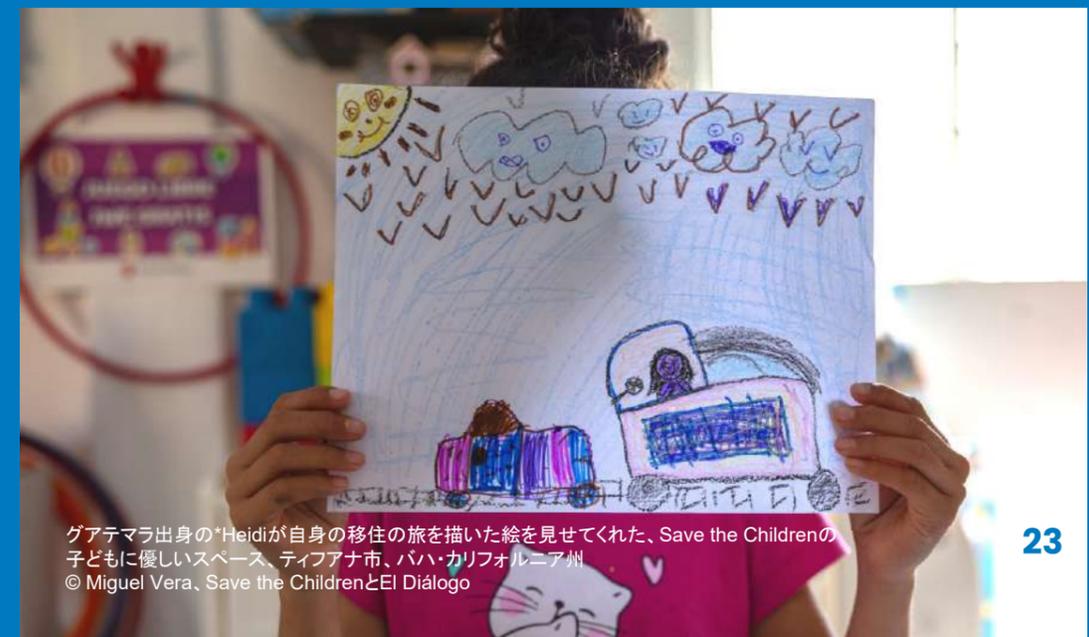
それら避難所の、過密状態・他の滞在者への不信感・監督の欠如が虐待の危険を高めている。また、文化的違いによるメキシコ人と他国のCAY間での、緊張・ハラスメント・排除が起きている。

5. 提言

以下の提言は、2024年11月～2025年2月に実施した調査から導き出されたものである。この期間は、特にアメリカの政権交代による、重大な政治的・社会的不透明さが特徴的であった。同期間でのインタビューでは、同伴者の有無によらず、CAY・サービス提供者・保護者から得た声には、移民政策の大幅な変更の可能性に直面し、神経質になっていることと、何となく待たされている感覚が表れていた。その空気は、メキシコ通過中に暴力・選択肢の欠如・絶望に陥る事態に入ってしまった/回避しようとする人びとの物語・感情・決断に広くみられた。

この状況下で、本報告書の調査結果と提言は依然重要であり、緊急性を強く訴えるものである。同伴者がいない子どもの移動と滞在の状況には、著しい改善がみられていない。むしろ、彼らの多くが、尊厳ある生活実現への代替案を想像・構築するための、十分なサービスを利用できない状態に直面し、自らの道を進むことも帰ることもできない状況に陥っている。したがって、CAYに対するサービスの質・提供範囲・適切性の向上は、喫緊の問題である。これは人道的に極めて重要で、私たち全員が共有すべき責任である。

提言は主な調査結果を要約しており、より広範で詳細な内容は、報告書の全編版で閲覧可能である。



グアテマラ出身の*Heidiが自身の移住の旅を描いた絵を見せてくれた、Save the Childrenの子どもに優しいスペース、ティファアナ市、バハ・カリフォルニア州
© Miguel Vera, Save the ChildrenとEl Diálogo

5.1 効果的で包摂的な教育機会

行政的・言語的・文化的な障壁により、CAYの移動状況が彼らの教育の享受を妨げている。地方自治体は彼らに対応した迅速な戦略を欠いている。

提言事項:

- 教育機会とその継続性を保証する、柔軟な戦略を設計すること
- 機関間と部門間の連携を強化すること
- ジェンダー・異文化理解・人権・子ども中心の姿勢を教育プログラムに取り入れることを確実にし、保護者に対しても、移民のCAYの教育への権利とアクセスについて啓発をすること
- 公的機関職員・教師・教育関係者に対し、入学と学業継続に関する研修を実施すること
- 心理教育的支援を備えた、安全な学校環境創出を推進すること

5.2. 心理社会的支援と包括的な保護

移動中のCAYは、トラウマ的経験によりメンタルヘルスに重大な影響を受けているが、特に国境地域でサービス提供は著しく乏しい。

提言事項:

- 異文化性・ジェンダー・人権を考慮した形で、心理社会的サービスを拡大すること
- 配慮ある、専門的なケアに関する研修を職員に実施すること
- 暴力の被害者が再度被害を受けないよう、彼らに特化した対応規則を実施すること
- 再統合手続きで、家族の統合の実現への取り組みを強化すること

5.3 制度強化と多部門協力

調整不備により、対応が断片的になっている。

提言事項:

- 各レベル政府部門と専門アクター間の協力体制を統合すること
- より多くの移動中のCAYに支援が届くよう、調整努力と保護サービスの提供を、公式な受け入れ施設の枠を超えて拡大すること
- 透明性の高い対話の場と参加型監督の設置を確実にすること
- 文化的仲介と言語サービスの提供を保証すること
- SIPINNAと弁護士事務所の連携を強化すること

5.4. 職員の継続的研修と能力強化

訓練を受けた人材の不足・高い離職率・過労が認められた。

提言事項:

- 適切な労働条件と継続的な研修を提供し、訓練を受けた職員を増やすこと
- 包括的なケアに関する研修をサービス提供者に実施し、対応能力の向上と啓発を行うこと
- 職員に対し、奨励金・セルフケア・心理的支援を施すこと

5.5 資金調達と機関の持続可能性

資金縮小は、サービスの継続性を脅かす。

提言事項:

- 資金調達を多様化(公的・民間・国際的資金)すること
- リソースの使用に関し、透明性と監視を保証すること
- 移動中のCAYが対象の重要プログラムの持続可能性を保証すること

5.6. コミュニティ参加と移動の安全

差別的態度と安全な移動手段の欠如が判明した。

提言事項:

- 受け入れ先コミュニティで啓発キャンペーンを実施すること
- 移民/強制避難民のCAYに、安全で利用可能な移動手段を保証すること
- CAYの権利に関する研修を、コミュニティのアクターと運営者に実施すること



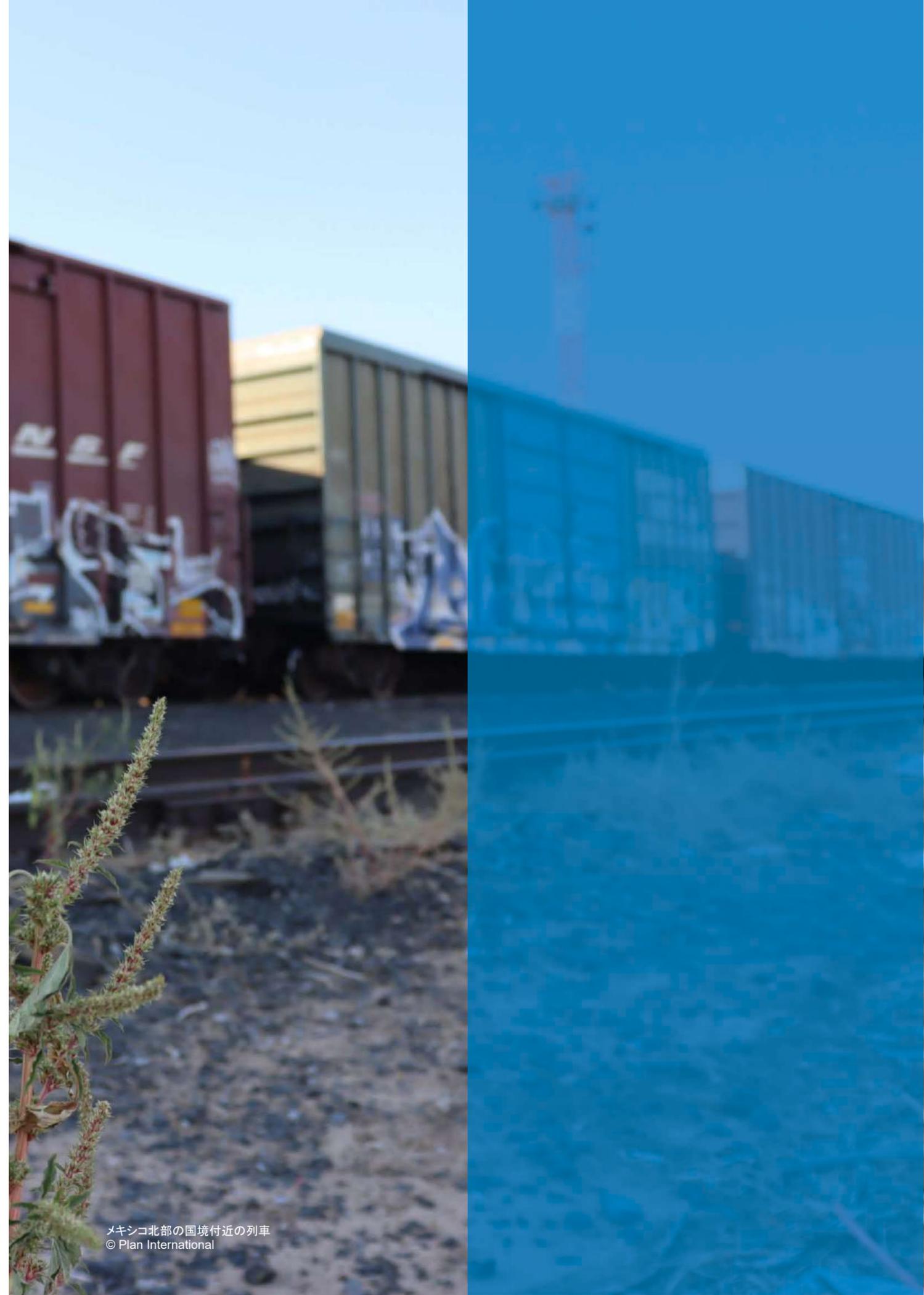
ハイチ出身の母娘、子どもに優しいスペース、ティファナ市、バハ・カリフォルニア州
© Miguel Vera, Save the ChildrenとEl Diálogo

5.7 強制避難と異文化性への配慮

強制避難民に対する認識は、未だ不十分である。

提言事項:

- 特定の登録と監督の仕組みを確立すること
- 先住民の言語的・文化的・教育的な権利を認識・保護する公共政策を策定すること
- 十分なリソースと専門職員の配置により、国境警備体制を強化すること
- 特に国境地域で、個別に調整した教育の提供を保証すること





 plan-international.org/mexico

 facebook.com/PlaninternationalMéxico

 twitter.com/plan_mx

 linkedin.com/company/plan-international-méxico

 youtube.com/user/plan_mx

 www.savethechildren.mx

 [@SavetheChildrenMexico](https://facebook.com/SavetheChildrenMexico)

 [@SaveChildrenMx](https://twitter.com/SaveChildrenMx)

 [@savethechildren_mx](https://instagram.com/savethechildren_mx)

 [@savethechildren_mx](https://tiktok.com/@savethechildren_mx)

発行: 2025年

文章と写真: © Plan Internationalと© Save the Children

表紙写真: 避難所にいる移動中の女の子、メキシコ © Plan International

本報告書で使用されているすべての写真は、プラン・インターナショナルとSave the Childrenのプロジェクトに参加する女の子/思春期の若者の姿を写したものであり、使用許可を得ている。これらの写真に写る人物が、いかなる形態の暴力・虐待の被害者であると想定はしないであらいたい。保護のため、名前の変更されている。

本文書は、内容の引用に対し、引用した組織が責任を負う限り、使用可能である。著作権はすべて保持している。